

**株式会社アドバンテスト**  
**2012年度 第3四半期決算概要**

2013年 1月30日  
取締役 兼 常務執行役員 中村 弘志

# 業績概要

ADVANTEST®

(単位: 億円)

	2011年度				2012年度					
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q		1Q~3Q累計	
							実績	前期比 (%)	実績	前年同期比 (%)
受注高	384	276	259	343	462	253	244	-3.7	959	+4.3
売上高	268	377	307	458	334	392	246	-37.2	972	+2.1
売上原価	137	205	173	208	158	187	116	-38.2	461	-10.6
売上総利益	131	172	134	250	176	205	130	-36.2	511	+17.1
営業利益	8	-31	-30	61	8	26	-26	-	8	-
営業外収支	-4	-20	-4	-14	5	-8	-4	-	-7	-
税引前純利益	4	-51	-34	47	13	18	-30	-	1	-
当期純利益	3	-48	-32	55	4	11	-34	-	-19	-
受注残	412	400	352	236	364	225	223	-1.1	223	-36.6

## ○ 2012年度第3四半期の業績概要

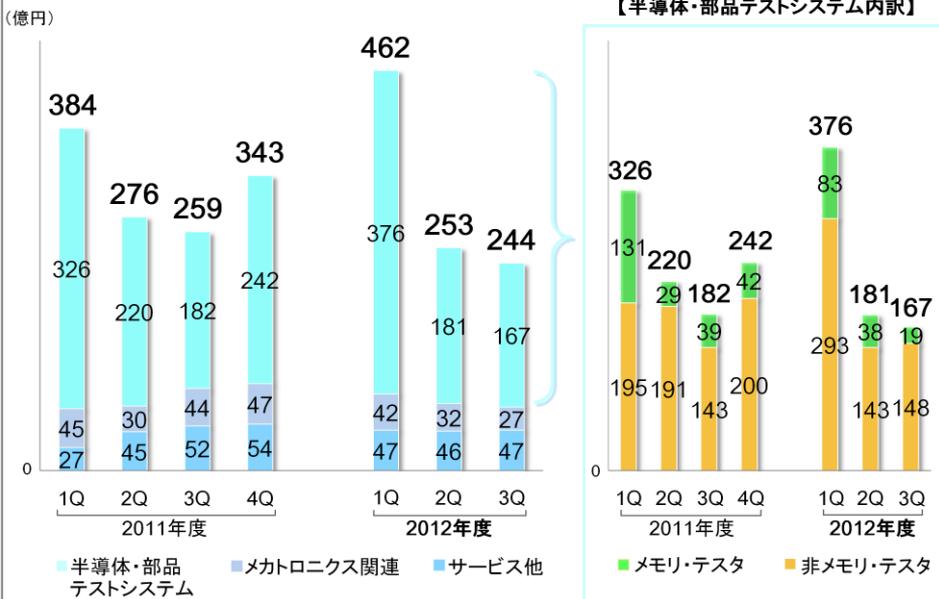
- 受注高 244億円 前期比 4%減
- 売上高 246億円 前期比 37%減
- 営業利益 -26億円
- 税引前純利益 -30億円
- 当期純利益 -34億円

なお営業外損失の主なものは、  
為替差損5億円

## ○ 受注残 9月末から2億円減少 223億円

# 受注高 事業セグメント別

ADVANTEST



3

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/1/30

## ○ 2012年度第3四半期の事業セグメント別受注高

前期の決算発表時点では、受注は第2四半期に底を打つとコメント。しかし、年末にスマートフォン関連で大きく需要が減少した影響を受け、事前の想定ほど受注高が伸びず。パソコン向けも、もう一段、落ち込んだ

## ○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比8%減 167億円
- うち非メモリ・テスト 148億円
- メモリ・テスト 19億円

(主な減少要因)

- ・メモリ・テスト  
DRAM、NANDともデバイス市場に調整色が濃く、新規のテスト需要が伸びなかった

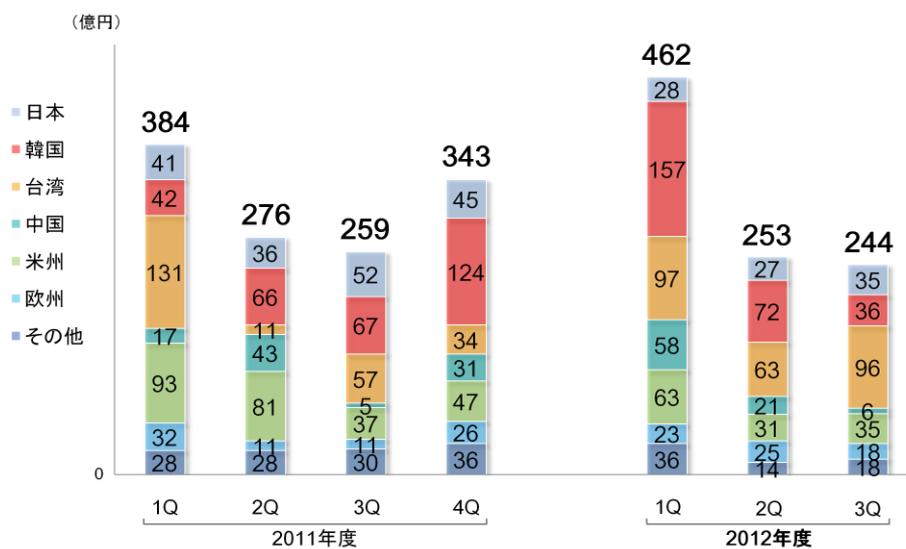
## ○ メカトロニクス関連事業

- ・前期比15%減 27億円
- メモリ・テスト需要の落ち込みと連動して減少

## ○ サービスその他事業は微増 47億円

# 受注高 地域(出荷先)別

ADVANTEST

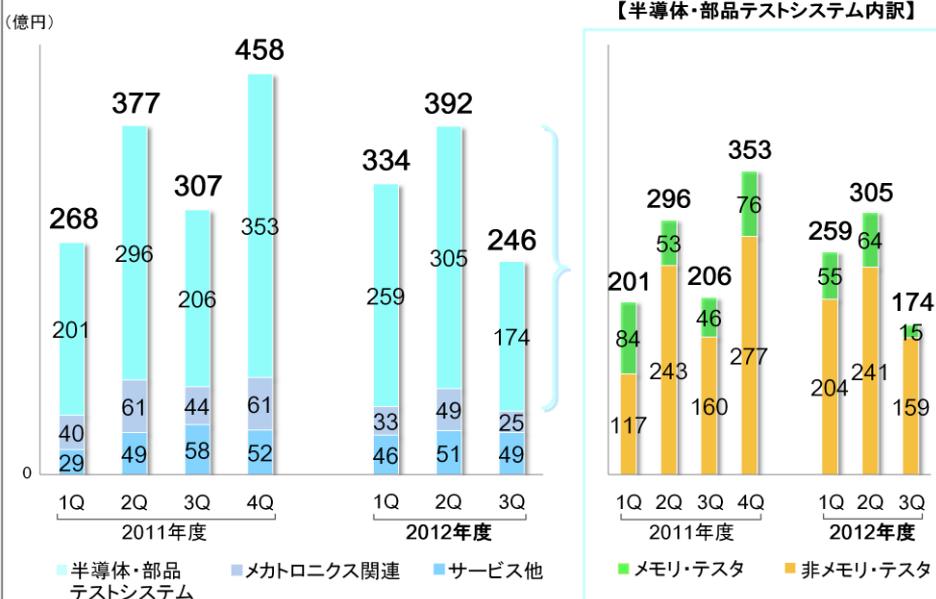


## ○ 2012年度第3四半期の地域別受注高

- 台湾  
LCDドライバー用テストが好調で増加
- 韓国  
メモリ・テストの需要減少に加え、通信用半導体向けが落ち込む
- 中国  
メモリ・テストが減少

# 売上高 事業セグメント別

ADVANTEST



5

All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/1/30

## ○ 2012年度第3四半期の事業セグメント別売上高

- ・もともと季節的に弱い四半期だが、第3四半期の受注が伸びなかったことで、売上も振るわず

## ○ 半導体・部品テストシステム事業

- ・前期比43%減 174億円
  - うち非メモリ・テスト 159億円
  - メモリ・テスト 15億円

### (主な減少要因)

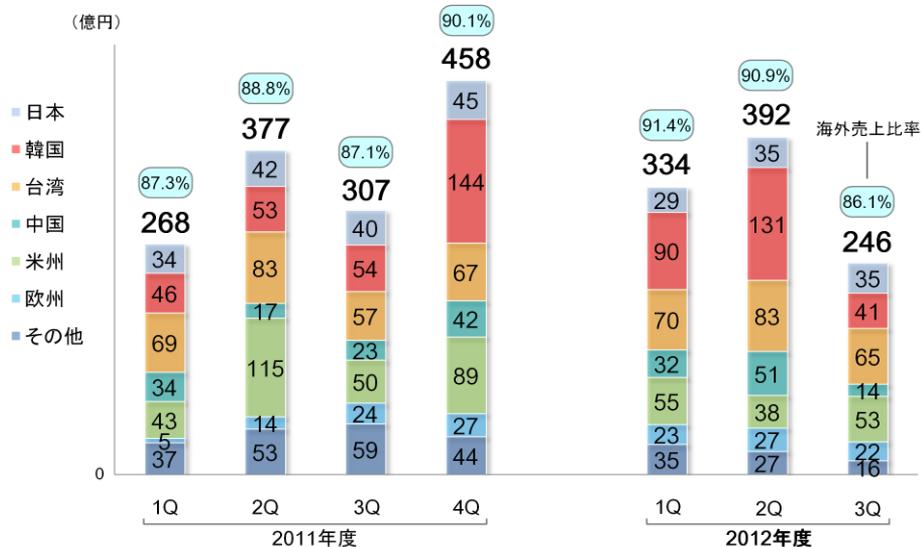
- ・非メモリ・テスト、メモリ・テストともスマートフォン関連で需要軟化

## ○ メカトロニクス関連事業

- ・前期比48%減 25億円
- メモリ・テスト需要の落ち込みと連動して減少

## ○ サービスその他事業は微減 49億円

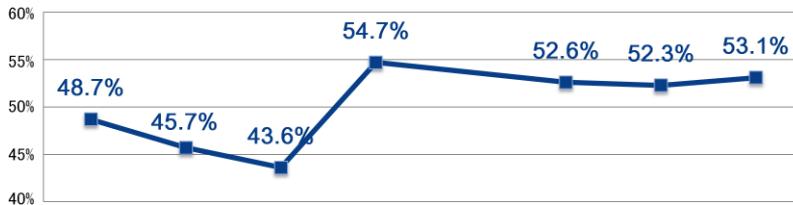
# 売上高 地域(出荷先)別



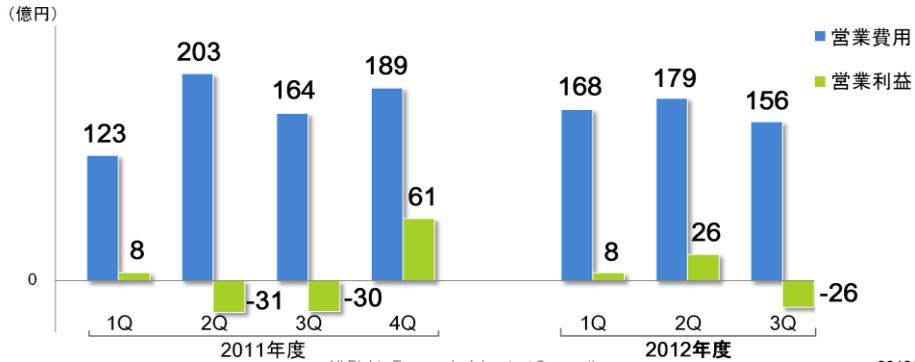
## ○ 2012年度第3四半期の地域別売上高

- 韓国、台湾  
スマートフォン向け需要の軟化により減少
- 中国  
NANDフラッシュ向けメモリ・テストが減少

<売上総利益率>



<営業費用・営業利益>



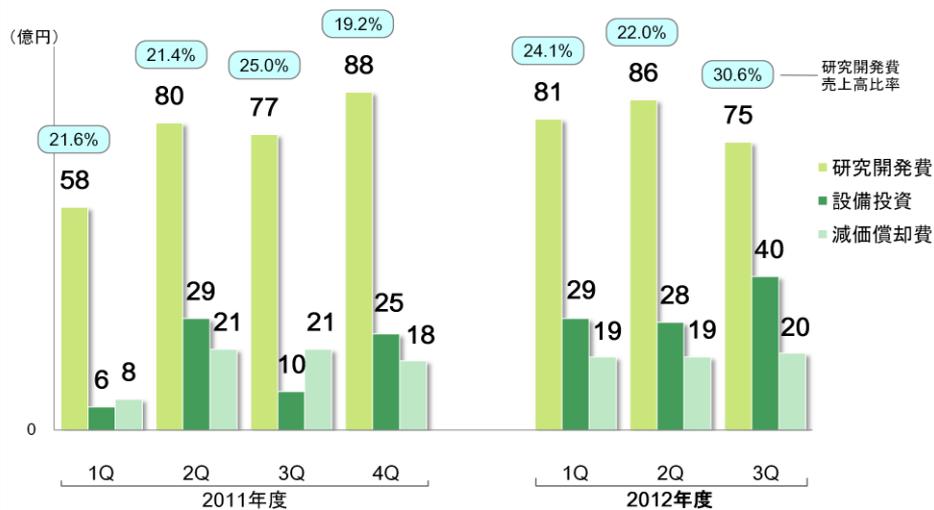
○ 2012年度第3四半期の営業利益について

○ 2012年度第3四半期は

- 売上総利益率 53.1%  
売上は減少したが、収益率の高い製品の売上構成比が上昇
- 営業費用 156億円 23億円減  
主な減少要因は、業績連動賞与の減少
- 営業損失 26億円

# 研究開発費/設備投資/減価償却費

ADVANTEST



8

All Rights Reserved - Advantest Corporation

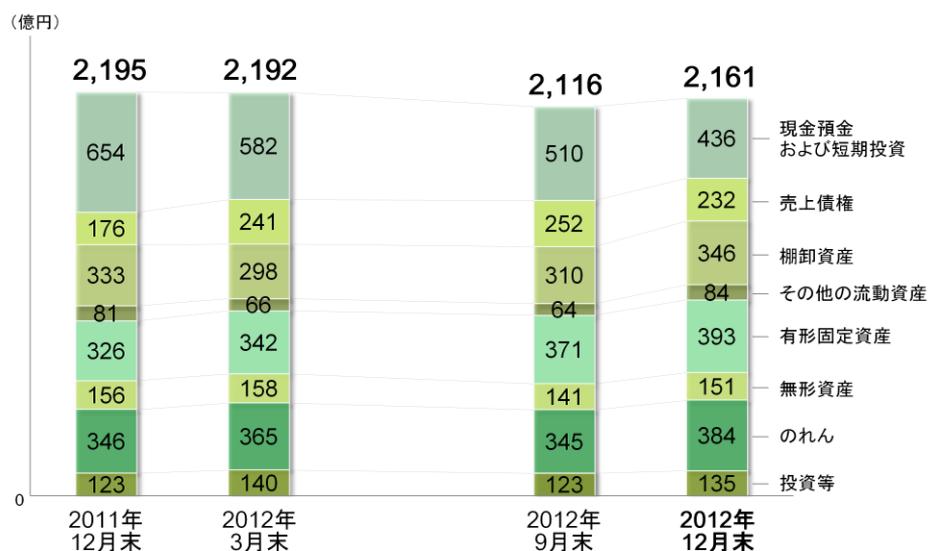
2013/1/30

## ○ 続いて2012年度第3四半期の営業費用の内訳

- 研究開発費 75億円 11億円減  
先の営業費用の減少理由と同じく、業績連動賞与の減少などが理由
- 設備投資 40億円 12億円増  
建設中の韓国新工場向けが主な使途
- 減価償却費 前期同等の 20億円

# バランス・シート <資産の部>

ADVANTEST



9

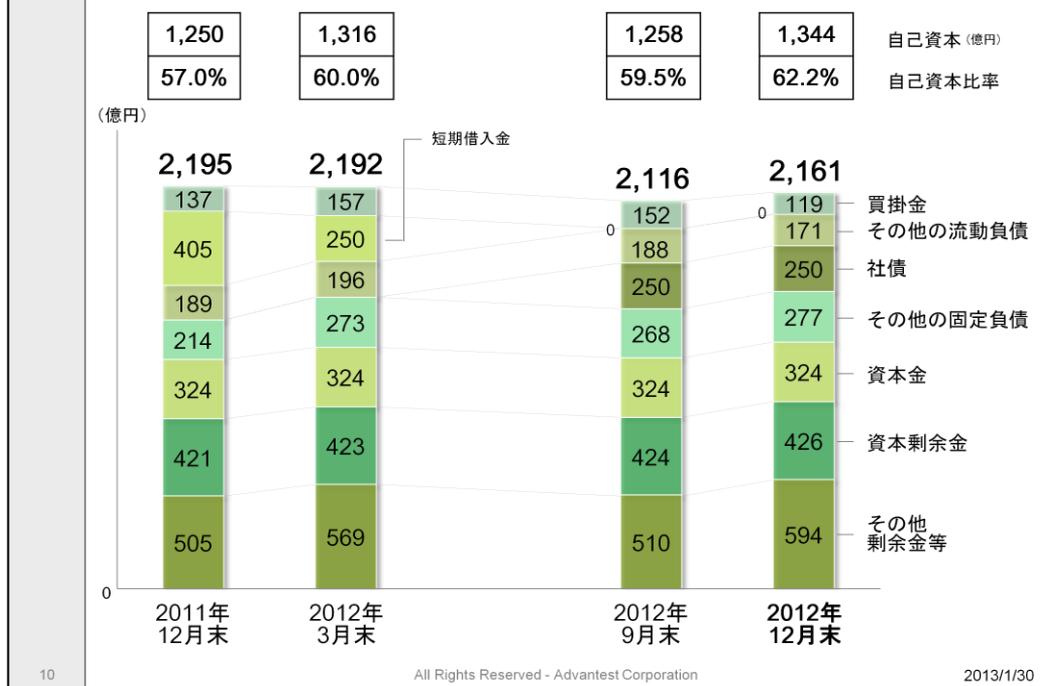
All Rights Reserved - Advantest Corporation

2013/1/30

- 2012年12月末時点のバランス・シート
- 資産の部
  - ・現金預金および短期投資  
2012年9月末比 74億円減 436億円
  - ・棚卸資産  
2012年9月末比 36億円増 346億円
  - ・有形固定資産  
韓国新工場建設に伴って、2012年9月末比 21億円増 393億円
  - ・のれん  
円安の影響により、2012年9月末比 39億円増 384億円
- これらの結果、総資産は、  
2012年9月末比 45億円増 2,161億円

# バランス・シート <負債・資本の部>

ADVANTEST®



## ○ 負債・資本の部

- 買掛金 119億円
- その他剰余金等 594億円  
円安影響により、為替換算調整勘定が132億円増加
- 自己資本 1,344億円
- 自己資本比率は  
2012年9月末から2.7ポイント増 62.2%

2012年度第3四半期 事業アップデート

# “成長活動に邁進”

2013年 1月30日

代表取締役 兼 執行役員社長 松野 晴夫

### ◆市場環境が急変

- ・一部スマートフォンの生産調整の動きに伴い、昨年末から市況に大きな変化。これまで第4四半期に受注増を期待していたが、主要顧客の投資見直しが相次ぐ
- ・パソコン市場低迷が続き、MPU向け、DRAM向けのテスト需要も回復に遅れ
- ・下期のテスト需要に力強さを欠くことから業績予想を再度修正

#### ○ 2012年度の事業動向の概観について

- ・この1年、テスト市場は、スマートフォンを中心とするモバイル機器市場の伸びに牽引されてきた。しかし、有カスマートフォンが生産調整が今後行われる見通しのもと、昨年末からテストの市況が一変
- ・これまで、スマートフォン関連での受注回復を第4四半期に期待していた。しかし、この生産調整の影響により、主要顧客の投資見直しが相次いだ
- ・また、低迷が続いたパソコン市場回復にも期待感を持っていたが、こちらも残念ながら盛り上がりには欠く展開となっている。そのためMPU向け、DRAM向けのテスト需要も厳しい状況
- ・以上の通り、下期のテスト需要に力強さを欠いた推移となっていることから、業績予想を見直す

## 2012年度業績予想

**ADVANTEST**

下段カッコ内: 2012年10月時点予想

(単位: 億円)	2011年度 実績	2012年度 上期 実績	2012年度 第3四半期 実績	2012年度 第4四半期 予想	2012年度 通期予想
受注高	1,262	715	244	321	1,280 (1,420~1,680)
売上高	1,410	726	246	348	1,320 (1,400~1,600)
営業利益	8	34	▲26	17	25 (60~160)

1株あたり  
配当金額

15円  
(下期10円)

10円

20円  
(下期10円)

### ○ 第4四半期 および 2012年度通期の業績予想

- 事業環境の変化を踏まえ、第4四半期の業績予想を次の通りとする

- 受注高 321億円
- 売上高 348億円
- 営業利益 17億円

- 2012年度通期の業績予想については、第3四半期の結果 および第4四半期の予想をもとに、次の通り修正

- 受注高 1,280億円
- 売上高 1,320億円
- 営業利益 25億円

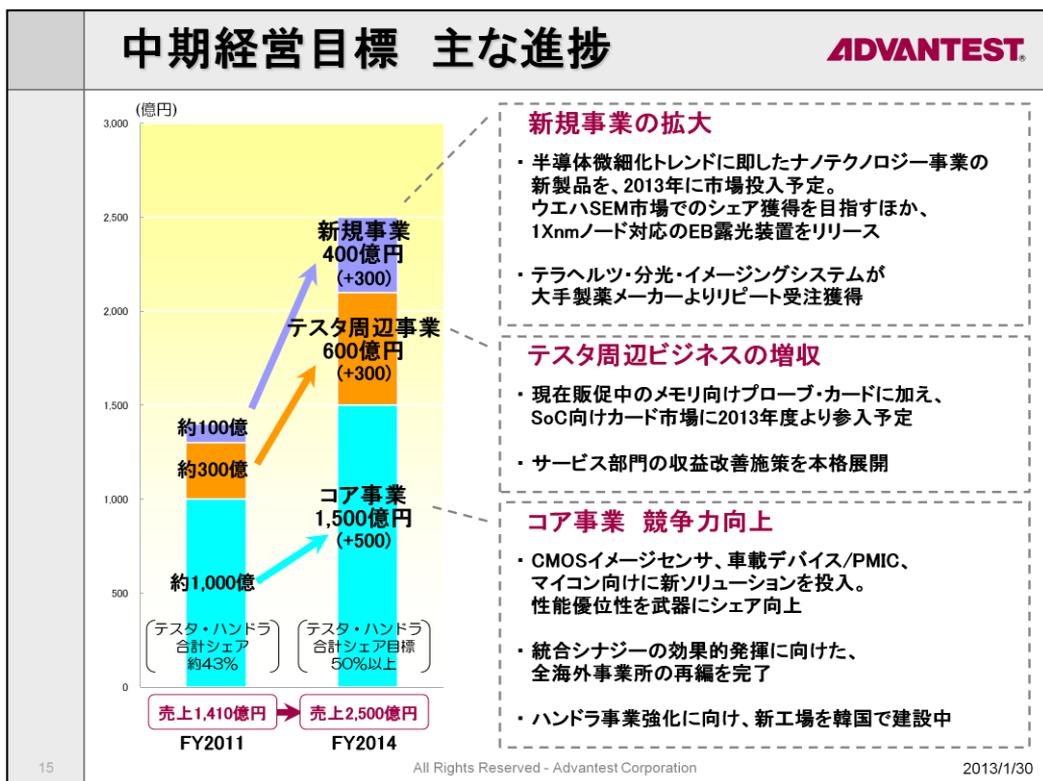
- 配当は、従来どおり、年間20円、下期10円とする予定

### ◆5つの方策の具体化

1. マーケットシェアの伸長
2. コア周辺ビジネスの拡張
3. スtockベース収益の増大
4. 上位市場の創出
5. 新規事業の育成

#### ○ 今後の施策

- テスタが事業の中心であることに変わりはないが、先ほどからの説明どおり、パソコンや一部スマートフォンの需要変動の影響を受け、足元のテスタ市場は伸びに力強さを欠く
- こうした市場停滞期においても、収益を安定的に今後得るためにはテスタ本体の販売に頼る、従来型のビジネスモデルの比重をいかに減らすかがポイント
- 事業構造の転換を加速させるべく、今後全社を挙げ、5つの施策に取り組む
  - マーケットシェアの伸長
  - コア周辺ビジネスの拡張
  - ストックベース収益の増大
  - 上位市場の創出
  - 新規事業の育成
- それぞれの具体的な事例は、中期経営目標のスライドに沿って紹介したい



### ○ 中期経営目標達成に向けて

- コア事業のマーケットシェア伸長策として、
  - 非メモリ・テストではCIS向け、パワー系向け、MCU向けに新ソリューションを投入。
  - メモリ・テストでも、デバイスの性能進化に即した新製品を投入
- 部門、地域の垣根を越えた連携のベースとして、世界各地の事業拠点の統合・再編を、2012年内に完了済
- シェア向上余地が大きいハンドラ事業強化の基盤として、韓国で新工場を建設中
- テスタ周辺ビジネス
  - プローブ・カードは、現在進めているメモリ向けのほか、SoC向けビジネスも2013年度に参入予定
  - サービス事業では、顧客の生産性向上支援など、付加価値の高いスキーム提供を本格化。ストックベース収益の増大に繋げる
- 新規事業
  - 先端半導体の微細化進行に即した、ナノテクノロジー事業新製品の市場投入や、テラヘルツ波関連製品「TAS7500」が大手製薬メーカーからリピート受注を獲得するなど、さまざまなプロジェクトが形を整えつつある
  - 中長期的にわたって持続的成長を遂げるため、上位市場の創出や、新規事業育成のさらなる活性化に向けた取組みを強化中

## ご注意

- ◆ 当社は米国会計基準を採用しております。
- ◆ 将来の見通しに関する記述について  
本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。